

【研究ノート】

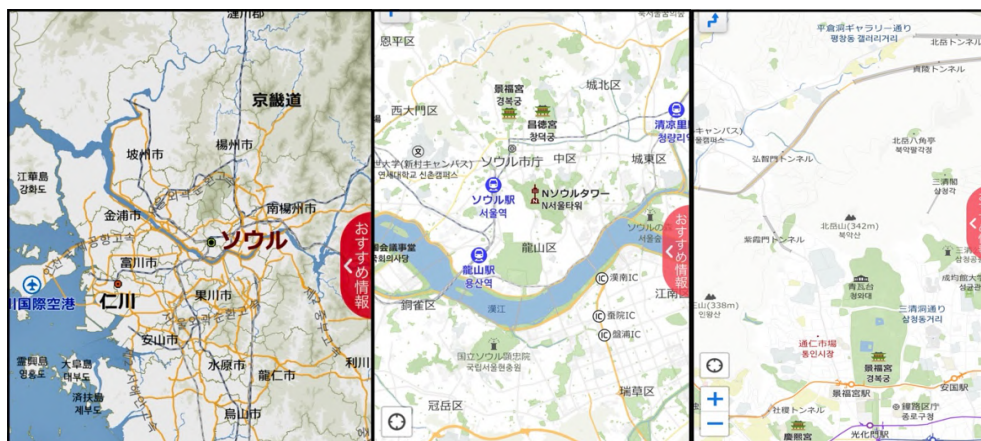
「バーニング」韓国調査
—江南・平倉洞・厚岩洞・坡州市—

山根 由美恵
(山口大学 講師)

はじめに

2023年9月7日～9日、イ・チャンドン監督の映画「バーニング」(2018:原作 村上春樹「納屋を焼く」)に関して、韓国ロケ地調査(ソウル市・坡州(パジュ)市)を行った。2020年頃から調査の計画は立てていたが、コロナ禍のため渡韓することができなかった。今回渡韓が可能になったため、誠信女子大学・趙柱喜研究員の協力の下、ロケ地調査を行った。以下、趙柱喜研究員からの聞き取り情報には(In)と記す。映画公開の2018年から5年経過していることもあり、施設の閉鎖や解体等があったことが残念であったが、今後の参考のために、そうした情報も記しておくこととする。

本稿は、地勢的なコンテクストを加えることで見えてくる人物像やテキストの解釈を行う。ソウル調査は、一：1ベンの住んでいた江南(カンナム)と2ベンの家族が住んでいると予想される平倉洞(ピョンチャンドン)という二つの富裕層が住む地域、二：ヘミが住んでいたソウルタワーに近い厚岩洞(フアムドン)地区について、格差の実態についての報告を行う。三では、ジョンスの実家がある坡州における北朝鮮との関係、およびジョンスの父についての考察を行う。



(コネスト韓国地図より)

- 一 ソウル富裕層地区について
 - 1 江南(ソウル南部):ベンの住んでいる地域

江南はソウル市の南、漢江（ハンガン）の南の地域であり、現在では江南区・瑞草（ソチョ）区を指すことが多い。¹1990年代からビジネス・政治・教育・商業など江南に移りつつあり、高層ビルが建ち並ぶ。そのため、不動産価格の急上昇も起こっており、マンションは一棟が億を超え（4～5億も珍しくない）、若者は家を諦めるといった韓国の国政上の課題となっている（In）²。

「バーニング」でジョンスが弁護士に会いに行く場面がある。弁護士はジョンスに「私に言わせれば君の父親こそ小説の主人公だ。波乱万丈の人生だしな。／変わり者だったよ。まさに小説の主人公だろ。パジュ第一高校で1位だった。成績じゃなくてプライドが。／君の父親が中近東で苦勞して帰った時、私は“カンナムに不動産を買えば絶対に後悔しない”と／プライドが高くて買わなかった。／故郷で畜産業を始めたが失敗してあなつた。今もそうだ。被害者に頭を下げて謝って反省文と嘆願書を出せば執行猶予も望めるがイヤだと意地を張ってる。弁護士の話も聞かない。だから君を呼んだ。面会に行つてうまく話せ。カットならず反省文を書けて。明日にでもすぐ。分かつたろ？」（32：20～33：54：Blu-rayの時間数、以下同様）と話す。ジョンスの父は傷害のため現在留置場において、畜産業も失敗し、どん底の状態と言える。プライドの高さから人の助言を素直に聞くことができないジョンスの父は、江南で不動産バブルが起きる前に不動産を手に入れるチャンスがあつたにもかかわらず、坡州市での畜産業を選択し、失敗したと語られている。現在の江南でマンションを購入するには億以上がかかるため、この時点で不動産を手に入れていれば、それを元手に別の事業も可能であり、中流以上の暮らしが可能であつたことが示唆される。つまり、江南はジョンスの父が不動産を買っていたら、ジョンスが住んでいたかもしれない土地であつた。しかし、ジョンスは父の尻拭い（牛の世話）のため、ソウル市から坡州市の古い実家に戻ることになる。

この場面の後にベンが登場する（空港へ迎えに行く）。ジョンスはヘミにベンとの関係を問うことができないまま過ごしていたが、ヘミから電話で呼ばれて江南の盤浦洞（バンポドン）・ソレマウル地区のカフェに行く。ソレマウルは1985年に在韓フランス人学校がこの土地に移転したことでフランス人たちが多く居住し、フランス通り・フランスタウンと呼ばれている。その後フランス企業が入り、現在では在韓フランス人の約半数がソレマウル一帯に住んでいる。そのため、店や通りの雰囲気もフランス風のレストランやカフェなどが立ち並ぶ、セレブで閑静な街となっている。³ジョンスとヘミはこの後カフェ近くにあるベンのマンションに行くが、そこは閑静な高級マンションであつた（図1・図2）。なお、ベンが住んでいる地域を「バンポ」と呼んでいる。ベンが「同時存在」について語つた場面では、「自然の道德とは同時存在です」「僕はここにもあそこにもいる／パジュにもバンポにもいる／ソウルにもアフリカにもいる／そういうこと」（1:17:12～1:17:35）と語っている。

先述したように、ジョンスの父は江南に不動産を買うチャンスがあつたにもかかわらず、それを選ばなかつた。ジョンスのベンに対する嫉妬心は、単なる富裕層への妬みだけではなく、父の選択次第では自分も江

¹ 新聞記事では松坡区が入ることもある。

² N放世代：2015年の就職市場の新造語で、難しい社会的状況のために就職や結婚など様々なことをあきらめなければならない世代を意味する言葉。社会、経済的圧迫のため、恋愛、結婚、住宅購入など多くをあきらめた世代を指す用語であきらめたことが多すぎて数えることもできないという意味を持っている。既存の3放世代(恋愛、結婚、出産放棄)、5放世代(3放世代+私の家づくり、人間関係)、7放世代(5放世代+夢、希望)からさらに放棄しなければならない特定の数字が決まらず、いろいろなことをあきらめなければならない世代という意味から出てきた言葉である（In）。

³ ソウル市観光情報公式サイトより。https://japanesc.visitseoul.net/GangnamArea/ソレマウル村/JPP011082

南に住んだ可能性もあったのに、現在では下層で生きざるを得ない現状から起こる昏い感情も含まれていたと考えられる。



(図1)



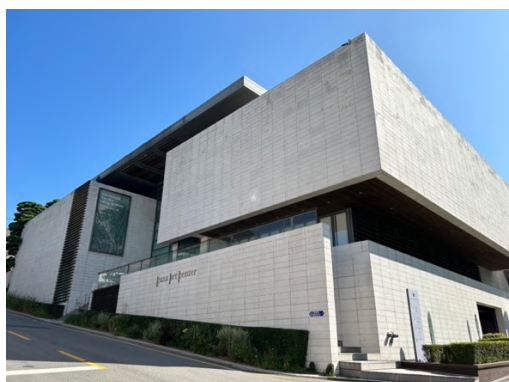
(図2)

(Donggwang-ro 43-gil 39)

2 平倉洞 (ソウル北部) : ガナ・アートセンター

映画の後半でジョンスがベンをストーキングする場面があるが、その一つにガナ・アートセンター (図3) がある。ガナ・アートセンターはソウル北部の平倉洞にあるが、平倉洞はソウルでも指折りの高級住宅地である。高級住宅が建ち並び、道路が非常に広い (図4)。韓国のドラマや映画の豪邸の場面で撮影されることが多い地域である。ソウル駅からは10キロくらいの距離であり、車は30分、バスでは50分を要する。

李氏朝鮮王朝は風水に基づく宮殿設計を行っており、景福宮 (キョンボックン) は北岳山 (プガッサン) を背後に置き、清溪川 (チョンゲチョン) が目の前にある吉地である。⁴平倉洞は景福宮の北の地域であるが、景福宮に關係する貴族階級 : 兩班 (ヤンバン) の居住地の一つであったため、高級住宅地としての歴史も長い。ただし、現在では傾斜が多い (後ろに北漢山 : プカンサン) ことや、ソウルから離れ交通などが不便なため、便利な江南に引っ越す富裕層が増えているという (In)。その際、住んでいた邸宅を別荘としておく、もしくは賃貸物件として貸す人もいるようである (In)



(図3)



(図4)

⁴ 朴賛弼「ソウル都城における宮殿の位置づけに関する研究」(『関西大学東西学術研究所紀要』2013、p58～59)

平倉洞は美術館が多く、住宅街の中に美術館やギャラリーが点在することでも有名である（ギャラリー通り）。韓国の美術館は富裕層と関係が深く、展示された絵画を鑑賞だけではなく、投資の目的で購入することも多いそうである（In）。稿者が訪れた日は、Rim Dongsik 氏の作品を無料で見ることができた（図5）。

ガナ・アートセンターでジョンスはベンが家族とともに食事をする姿を観察していたが、この行動は東京の街中で美術館に行くという行動とは違う意味を持っている。平倉洞の高級住宅地にあるガナ・アートセンターはソウルの中核地から離れているため、庶民が気軽に美術を見に行くという所ではなく、富裕層が自宅（もしくは別宅）近くのアートを見る、もしくは芸術が好きな人がその意図で訪れるという場合が多い。そのため、ジョンスがボロボロのトラックでガナ・アートセンターを訪れたのは悪目立ちする行動であった。

ガナ・アートセンターでベンは家族と食事を取っているが、この行動からベンの家族が平倉洞に本宅（もしくは別宅）を持つ家系であることが示唆される。映画でベンは何の職業を行っているか明確ではなく、自らは「遊んでいます」（48：38）と語っているが、家族との場面が挿入されることで、ベンが富裕層出身であることを伝えている。ここで強調されるのは、富裕層と庶民（下層）の超えられない壁であり、富裕層はその資産を子孫に継承し続け、下層の人間は這い上がれない。格差を破壊することは非常に難しいことを伝えている。なお、ベンが食事をしたガナ・アートセンター内のレストランは2年前に閉鎖され、現在は休憩スポットとなっている（図6）。



（図5）

（図6）

二 厚岩洞（ソウル中央）

ヘミのアパートは厚岩洞（フアムドン）地区にある。ソウル駅東側と南山の間にあり、厚岩市場等、庶民の生活が垣間見られる地域である。ソウル駅から近いこともあり、日本統治下（1920年頃～1945年）は朝鮮総督府鉄道局の職員用官舎・朝鮮銀行の社宅や、日本風の家屋が建てられ、日本人の高級住居地も存していた。⁵終戦後は韓国政府から民間に払い下げられ、そのまま住宅として補修・改築しながら使われてきた。

⁵ 五島寧「京城の市街地整備における日本人居住区の影響に関する研究」（『都市計画論文集』2013、pp. 515-517）

現在は南山の麓のための急傾斜の坂と狭い道路の不便さから、空き家も増えている。町並みとしては日本統治下に作られた赤煉瓦の色が多い。近年レトロな雰囲気を楽しむためのカフェなどが作られつつあるが、部分的かつ小規模な開発に止まり、ソウルタワー（南山タワー）に近接したきらびやかなソウルの中で取り残された影のような地域と言える。ソウル市では消防車進入が不可である地域に関する対策に苦心しているが、一番多いところがファムドンがある龍山区となっている（In）。一台分、もしくは路駐用のスペースと一台分がギリギリ走れるスペースの道路が多く、整備が及んでいない（図7）。また、電線も低い位置で何本も表に出た形となっており、都市計画が進んでいないことが如実に表れている（図8）。アルバイト生活をし、アフリカ旅行後は一文無し状態となっていたヘミが住居として選択するのは納得できる環境である。



(図7)

(図8)



(図9：11：39)

ヘミのアパートは現在も使用されている現実の建物が使用された（図10・図11）。関係者以外の中には入れない。厚岩洞地区をソウル在住（生まれ・育ち）の趙先生も初めて訪れたと言われ、韓国人にとってあまり馴染みのない土地のようなのである。小さな路地が入り組んでおり（図12）、かなり迷うものとなった。建物は急斜面の坂にあり、横幅が非常に狭いもので、廊下スペースは存しない。一階に一部屋のみの設計になっており、ヘミが住んでいたのは3階である（図11）。



(図 10)

(図 11)

(図 12)

ジョンスがヘミのアパートへ初めて行ったとき、バス停から二人は歩いて向かった（図 15）。バス停はフアムドンであり（図 13・図 14）、アパートはそこから徒歩で 200 メートルくらいの距離である。ソウル駅からフアムドンまでバス停は 4 つのため、徒歩も可能である。繁華街でアルバイトするのも気軽にできる立地である。



(図 13)

(図 14)



(図 15 : 10 : 56)

ヘミのアパートは、旧京城護国神社址（108 階段）の近くでもある。日本軍が建立した京城護国神社は戦後すぐに解体され、現在は階段のみ残されている。政治的な意図をさりげなく残すイ・チャンドンの映画スタイルを鑑みると、ソウルの象徴であるソウルタワーの麓にありながら、旧京城護国神社址の近くで都市計画も進まず、日陰のようなアパートに住まざるを得ないヘミの現在の状況を、古びつつある植民地時代の日本建築を選択することでアイロニーとして示している。なお、経済格差を主題としたアカデミー受賞作「パラサイト」においても、厚岩洞は一部ロケ地（逃亡の際の階段の場面）として使用されている。⁶

三 坡州市（ジョンスの住居）

1 坡州市について

ジョンスは父が留置場に入ったため、牛の世話をするために坡州市の実家に戻ることになった。そのため、坡州市が重要な舞台となっている。「バーニング」の特徴として、経済格差の問題と北朝鮮との関係を映画に組み込んでいる点がある。

坡州市は、韓国の北西部の京畿（キョンギ）道⁷北西部に位置し、軍事境界線（38 度線）を隔て北朝鮮と接する最前線の市である。板門店ともに市域に非武装地帯（DMZ）がある唯一の市でもある。軍事関係施設が多く（韓国軍だけでなく、米軍キャンプも 6 施設）、軍人がチェックするための検問所の数も多い。また、古来は農業が主な産業であり、米作が盛んで⁸、長湍豆（チャンダンコン）も有名である。1996 年に市へ昇格したことから、ベットタウンとしてのマンション、ヘイリ芸術村やロッテ・プレミアムアウトレットなどの娯楽関係施設の建設とともに、精密機械の製造業（LG ディスプレイ）、出版優遇措置としての出版団地の計画も進んだ。特に、坡州出版団地には 200 社以上の出版関係の会社があり、アジア出版文化情報センターも 2014 年に開館した。⁹このように、現在の坡州市は軍事以外の特色も生まれつつあるが、イ・チャンドンは坡州の表象を北朝鮮との関係と農業という要素に絞り込んでいる。都会と田舎、ソウルの高級住宅地で「遊んで暮らす」高等遊民と酪農・アルバイトを行う底辺の若者という格差を強調させるための選択であると言える。

ジョンスはトラックや電車でソウルに通っていたが、ソウル～坡州間は約 30 キロの距離である。ベットタウン化しているため移動に無理な距離ではないが、車では 1 時間半以上かかる（渋滞の場合更に時間がかかる）ため、それほど簡単に行き来できるものではない。ジョンスはヘミのために無理をしてソウルに通っており、ヘミの失踪後に行ったベンへの執拗なストーキングも何が何でも手がかりを見つけないというジョンスの執念の現れであることがわかる。

現在、ジョンスの家は解体され、平地化され、牛小屋のモデルの建物のみ残されている（図 16・図 17）。周囲の環境も新しい建物が建築中であり（100 メートル離れていないところにカフェが新設されていた）、

⁶ https://www.konest.com/contents/korean_life_detail.html?id=28481

⁷ 行政単位。日本では北海道が相当する。

⁸ 坡州米は王宮に献上されたほど品質が良く、全国的にも有名である。

⁹ https://www.paju.go.kr/user/register/BD_index.do（坡州市公式サイト）

<https://www.city.hadano.kanagawa.jp/www/contents/1001000001978/index.html>（姉妹都市：秦野市による坡州市の紹介）

少しずつ開発が入りつつある。なお、映画で印象的だった北朝鮮の対南放送も現在は行われていない（図18・図19）。



(図16)



(図17)



(図18)

(図19 : 1 : 03 : 01)

ジョンズが降りたバス停はそのまま残っているが、クモの巣などが多く、田舎の利用頻度が少ないバス停という点は、撮影時と同じ環境であると想像される（図20・図21・図22・図23）。



(図20)



(図21)



(図22)



(図 23 : 18 : 35)

先に、坡州市は軍事以外の特色も生まれつつあると述べたが、やはり第一の特徴として、北朝鮮に隣接する最前線という場であることは外せない。市内には多くの軍事施設があり、軍関係の車もソウル市内よりも多く走行していた。また、DMZ や板門店（稿者の滞在時は休止中）をめぐるツアーも盛んで、観光の面でも一番の特徴となっている。稿者はDMZ をめぐるツアーに参加したが、パスポート確認、軍人からの複数のID チェックやバス車外の写真を撮ることの禁止など、様々な制約があり、通常では感じられない緊張感を持った。現在韓国では北朝鮮が極秘で掘り進めたトンネルが4カ所発見され、うち一つは1990年代に発見された。坡州市は第3トンネル跡があり、その跡を見学することができる。北朝鮮が掘ったトンネルはまだあるのではないかとされており、同族が殺戮し合った朝鮮戦争の凄惨さと共に、現在の段階でも冷戦が終わっていないことをリアルに感じさせるものである。

イ・チャンドンは次のように語っている。¹⁰

「パジュはソウルから車で1時間ほどの場所です。昔は伝統的な農村だったのですが、今は農村の共同体が解体され、倉庫や工場や外国人労働者が目に付く場所に変化し、農村としてのアイデンティティを失ってしまった空間といえると思います。休戦ラインの川向こうの方には、北朝鮮が見え、対南放送のスピーカーの音が聞こえてくるのです。南北関係が今は良好になっているので最近では静かですが、撮影中はずっと聞こえていました。韓国社会の日常を象徴するような場所でもあると思います。表向きに、南北の緊張状態は目には見えないかもしれませんが、あの場所に行くと、それが日常になって、見えてくるような気がします。そういう意味で、韓国の現実を見せられる場所だと思うのです」

実際に坡州市やDMZに訪れることで、イ・チャンドンが語った「南北の緊張状態は目には見えないかもしれませんが、あの場所に行くと、それが日常になって、見えてくるような気がします」という言葉が実感をもって感じられた。拙稿で坡州という舞台について、「著者は、三人がパジュという場で会ったことが物語を暴力性に導いたという解釈を述べてみたい。物語中盤まで、三人はソウルで

¹⁰ <https://eiga.com/news/20190201/13/>

何度か会っていたが緊迫した関係には至らなかった。パジュのジョンスの実家に二人はやってくる
が、車から降りてすぐ北朝鮮のプロパガンダ放送が流れるシーンとなり、この場が冷戦が続く緊張
状態であることを意識させている。その後、大麻を吸ったヘミが夕日を見ながら半裸で踊り、アフ
リカで感じた消滅願望を再認識し、涙を流す。また、ジョンスは父への憎しみを語り、ベンはハウ
スを焼く告白をする。三人それぞれが心の内奥にあった感情を顕在化した。ソウルではなくパジュ
という二国間の緊張状態が感じられる場で心の内奥を吐露したことが、物語を暴力性に導いてゆく
と考えられないだろうか。つまり、場の持つ力（二国間の殺戮の歴史と現在も続く緊張関係）が、
ジョンスの内奥を揺さぶり、それを暴力として発現させてしまう、という解釈である」と述べた。
今回調査した坡州市の現実、この解釈を補強できるものとする。11ここで着目したいのは、北朝鮮との
緊張関係の空気感が現在生きている格差社会に生きる若者の不満に火を付け、それが暴力として発現され
る可能性（危険性）である。これがイ・チャンドンの一つのメッセージであったと考えられる。しかし、「バ
ーニング」の韓国国内の観客動員数は、海外で様々な賞を受賞12していることを鑑みると期待よりも少なく
（528626人）、興行成績として満足できるものではなかったようである。13特に、結末が曖昧な点が賛否
両論となった。複雑さと寓意による政治性の伝え方は、イ・チャンドンの「ペーパーミント・キャンディ」や
「オアシス」ほど刺さらなかったようである。

2 ジョンスの父について

坡州の実家には父の写真が何枚か飾られている。ジョンスの父は若い頃に中近東に出かけ、帰国後、江南
の不動産を買うのではなく、故郷の坡州に戻り、畜産業を始め、失敗した。「バーニング」は2018年の作
で、ジョンスは大学を卒業し、兵役も行っている設定なので24歳前後、誕生年は1994年付近と推測され
る。1992年頃の穏やかな表情の写真（図25）は、姉がいることから、結婚前後の写真と想像される。図
26には1980年5月14日という日付で、軍服を着て仲間と映った写真があることから、光州事件に軍人側
として参加したと予想できる。光州で学生・市民軍と衝突した5月18日の直前の写真が飾られているとい
うことは、この後の事件で仲間が死傷した、もしくは市民軍への徹底的な弾圧を行ったことによる心身の不
調のため、集合写真が撮れなかったことが想像される14。この後、父は中近東に向かった（図24）が、1970
～80年代の韓国では中近東に出稼ぎに行く人が多かったため、中近東への出稼ぎ員となった可能性が高い。

15

11 山根由美恵「世界文学としての「バーニング」—村上春樹「納屋を焼く」を超えて—」（『広島大学大学院
文学研究科論集』2019、pp.61-62）

12 「バーニング」は、第71回カンヌ国際映画祭の国際批評家連盟賞・バルカン賞、LA映画批評家協会
（LAFCA）とトロント映画批評家協会（TFCA）では最優秀外国語映画賞を受賞した。

13 <http://www.koreanfilm.or.kr/eng/films/index/filmsView.jsp?movieCd=20173202>

14 文京洙『韓国現代史』（岩波新書・2005）によれば、「テレビは、連日、光州市民を暴徒呼ばわりし、この
騒乱がスパイや不純分子の策動によるものだとして報じた。新軍部は、湖南への差別的な眼差しに便乗して、
反政府運動への見せしめとして光州を打ちのめそうとしていた」（p142）、「二〇〇一年までに韓国政府が確
認した光州事件での犠牲者（死者）の数は、民間人一六八人、軍人二三人、警察四人、負傷者は四七八二
人、行方不明者は四〇六人に達する」（p144）とのことである。（p144）

15 春木育美「韓国の外国人労働者制作の展開とその背景」に「1965年に設置された韓国海外開発公社は、
国内の労働力を海外へ送る国家機関として機能し、炭鉱労働者や看護師、非熟練労働者を旧西ドイツや中
東諸国に送り出していた」（『人文・社会科学論集』2010、p94）とある。



(図 24 : 20 : 28)

(図 25 : 20 : 30)

(図 26 : 20 : 34)

周知の通り、イ・チャンドンの代表作「ペーパーミント・キャンディ」(2000)で、光州事件は主人公ヨンホの人生を狂わせるターニングポイントとなっている。ヨンホは光州事件で、女子大生を助けようとした際に誤射して死なせ、そのことから自分の人生は汚れたものであり、初恋のスニムと共に歩めないと、彼女を遠ざけ、最後は「戻りたい」と叫びながら自殺を選ぶ。「バーニング」においても、父と光州事件の関わりは意識的に配置されていると考えられる。つまり、光州事件に参加することによって、元々プライドが高く、周囲から浮いていた父が、更に悪い運命に進んでいくきっかけである。光州事件後に中近東へ渡り、苦労したものの財をなすことはできなかった。中近東から帰った際、江南に不動産を買う選択肢もあったものの、坡州で畜産業を始める。1980年代後半から1990年代前半に坡州で畜産をするという選択は、ソウルでは就職できなかったある種の落伍者というイメージを持つという(In)。また、坡州の農家は、田舎であるので地域のコミュニティを大事にする。出身が坡州であるとは言え、高校ではプライドの高さが評判になっており、地元を離れ中近東に行っていたジョンスの父は、地域社会にうまく溶け込めず、周りの協力を得られず、失敗したことが容易に想像できる。落伍者というイメージを払拭する為に、周りを見返そうと誰にも協力を仰がず孤立し、その反動から暴力性が増すという負の連鎖が重なっていったのである。

この父の形象はフォークナー「Barn Burning」の父と重なり、父も暴力に起因する隣人トラブルから引っ越しを繰り返し、貧しい生活が続いている点に共通点が見られる。フォークナーとの相違点として、光州事件や北朝鮮との関係を組み込んでいる点が挙げられる。フォークナーとの関係は別稿で討究したい。

おわりに

今回、ロケ地調査を行うことで、台詞になくとも映像で示す情報の多さを理解することができた。映像は文章よりも多くの情報を一瞬で示すことができるが、特に格差の問題は居住地や建物を示すことによって瞬時に表すことができ、映画というメディアの特色になっている。経済格差の問題は「パラサイト」でも描かれているように、現代韓国社会の喫緊の課題である。「バーニング」の特徴として、若者にくすぶる格差に対する不満を北朝鮮との緊張関係を通して暴力性に発現させるという表現方法があるが、暗喩的な形であったので、朝鮮戦争／格差それぞれに集中した映画よりもメッセージ性が伝わりにくいものとなっている。しかし、冷戦が未だに終わってい

ない状況と格差の問題を複合させた「バーニング」は、現代韓国の二つの問題に着目した優れた映画であると考えられる。

*本報告は、清信女子大学・趙柱喜研究員の多大な御尽力によるものである。一日半、ご自身の車を出して、坡州市やソウル市の狭い道など、丁寧に探し当てていただき、また深い知識からの完璧な通訳を行っていただいた。記して深く謝意を述べたい。

*引用は Blu-ray 版「バーニング 劇場版」（2018 TWBS-5145）による。